

2025（令和7）年度 全国地域青年「実践大賞」 報告書

全国地域青年「実践大賞」とは

全国の青年たちによる主体的な実践を掘り起こして紹介し、そして次の活動への励みになることを目的に日本青年団協議会と一般財団法人日本青年館が主催となり、毎年実施している顕彰制度です。

私たちは、様々な地域で展開される特色ある実践を集めることで、相互に学び合い、地域での活動や青年たちの生活をより豊かにすると確信し、この顕彰制度を実施しています。

主 催

日本青年団協議会、一般財団法人日本青年館

目 次

1. 応募実践・結果一覧表	1
2. 応募作品実践概要・審査員講評	
◆大賞	6
◆準大賞	7
◆奨励賞	8
◆審査員賞 アイデア賞	12
地域 PR 賞	13
◆特別賞 田澤義舗賞	16
全国青年団OB会奨励賞	17
◆その他の応募作品	19
3. 資料集編（表彰団体提出書類の一部抜粋）	
◆大賞 アピールレポート	25
◆準大賞 アピールレポート	29
◆特別賞 田澤義舗賞 アピールレポート	33
全国青年団OB会奨励賞 アピールレポート	37
4. 表彰式・学習会編	
◆表彰式・学習会 概要 審査員講評	41
◆大賞 学習会資料	45

2025（令和7）年度全国地域青年「実践大賞」受賞結果・応募一覧表

審査会	2026年2月17日（火） 13時00分～17時00分	
審査会場	日本青年館5階 青年団ルーム	
審査員	萩原 建次郎氏（駒澤大学総合教育研究部教職課程部門教授） 佐橋 俊彦氏（東京新聞メディアビジネス局メディアビジネス委員） 上原 幸子氏（武蔵野美術大学通信教育課程デザイン情報学科教授） 齊藤 陽介氏（文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長補佐） 澁谷 一隆（一般財団法人日本青年館公益事業部部長） 棚田 一論（日本青年団協議会事務局長）	
進行	水村 仁美（日本青年団協議会事務局長）	

◆受賞結果

大賞	土佐市青年団	「世代交流食堂なぶらっこ」プロジェクト
準大賞	もりやま青年団	もりやま☆こんにちワーク13
奨励賞	高島市青年協議会	たかしま親子きもだめし in 2025
奨励賞	石垣市青年団協議会、宮良青年会	石垣市青年団協議会Presents宮良青年会防災サバイバルキャンプ・令和7年度石垣市スポーツ少年団キャンプ・スクール
奨励賞	CREW R.S. 竜王町青年団	レクッサ（文化活動）

<審査員賞>

アイデア賞	日野町連合青年会	「推し活」×「防災」～推しでつながる防災セミナー～
地域PR賞	柴田町青年会『雀の一声』	ゆずれない特産品PRカフェ

<特別賞>

田澤義鋪賞	高知県青年団協議会	高知家モリモリプロジェクト～竹編～
全国青年団OB会奨励賞	西米良村青年会	第29回新春やまびこロードレース大会

◆応募実践

No.	道府県名		市町村名	団体名	活動の名称
1	0301	岩手県	盛岡市	岩手県青年団体協議会	活動家研修会
2	0302	岩手県	陸前高田市	陸前高田市青年団体協議会	気仙大工左官伝承館煤払い
3	0401	宮城県	柴田町	柴田町青年会『雀の一声』	ゆずれない特産品PRカフェ
4	2301	愛知県	豊川市	豊川市青年団協議会	研修旅行2025
5	2501	滋賀県	竜王町	CREW R.S. 竜王町青年団	レクッサ（文化活動）
6	2502	滋賀県	日野町	日野町連合青年会	「推し活」×「防災」～推しでつながる防災セミナー～
7	2503	滋賀県	高島市	高島市青年協議会	たかしま親子きもだめし in 2025
8	2504	滋賀県	近江八幡市	滋賀県青年団体連合会	滋賀の音色のおもてなし
9	2505	滋賀県	守山市	もりやま青年団	もりやま☆こんにちワーク13
10	3901	高知県	土佐市	土佐市青年団	「世代交流食堂なぶらっこ」プロジェクト
11	3902	高知県	高知市 土佐市	高知県青年団協議会	高知家モリモリプロジェクト～竹編～
12	4501	宮崎県	西米良村	西米良村青年会	第29回新春やまびこロードレース大会
13	4701	沖縄県	石垣市	石垣市青年団協議会、宮良青年会	石垣市青年団協議会Presents宮良青年会防災サバイバルキャンプ ・令和7年度石垣市スポーツ少年団キャンプ・スクール

大賞・準大賞・奨励賞 実践概要 ・ 審査員講評

3 県 5 実践が受賞

※審査員の講評以外は、提出資料のアピールレポートや推薦書から抜粋しています。

大賞

活動に常時または定期的に取り組み、地域に大きく貢献し、集められた実践の中で最も優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。活動奨励金5万円と表彰状が授与されます。

土佐市青年団（高知県）

概 要

活動名称	世代交流食堂なぶらっこプロジェクト		
活動場所	高知県土佐市		
活動実施日	2025年5月1日～現在		
関係者数	200人	参加者数	100人
活動概要	「土佐市青年団で地域食堂?！」…地元土佐市で地域食堂を運営していた有志のみなさんから食堂を辞めてしまうというお話を聞き、「地域の方々・子ども達の居場所をなくしたくない!」という思いから一念発起し青年団が運営する“世代交流食堂なぶらっこ”をスタート。何もかもが初めて・手探りの中だったが、地域の多くの方々に支えられ、毎回大盛況の食堂に。青年団が“繋ぐ”地域の居場所・なぶらっこプロジェクトの歩みです。		

審査員講評

実践大賞の受賞、誠におめでとうございます。

取組のきっかけは、もともとあった地域食堂がなくなることになり、運営を引き継いでもらえないかという相談があったこと。その始まりは、どちらかといえばやむを得ないものであったかもしれませんが、『大変だとは思いますができるかできないかと言うより、「地域の居場所がなくなってしまうこと」を想像した時に、やらないと言う選択肢はなかった』という心意気と、一度引き受けたことに対し

て真摯に向き合う覚悟、試行錯誤しながら誠実に取り組む責任感に、感動を覚えました。特に、自分たちだけでどうにかしようということではなく、地域の様々な方たちに相談し、できる範囲で楽しく関わってもらおうという姿勢で協力を仰ぎ実現させていったことが、この取組を支えている根幹になっていると感じます。結果として、単に地域食堂を継続するというだけでなく、様々な世代が集い交流する、まさに名前の通り「なぶれる」（土佐弁で「群れ」を表す）場所を実現しています。

地域の困った声をキャッチして、その困りごとに自分たちならどう向き合えるかということを実践した、地域を支える青年像を象徴するような取組です。『若い世代が「やってみよう♪」を持ち寄り、色々な関わり方で盛り上げていける場所をこれからもつくっていききたい』——こうした価値観が広がっていくこと、そして、その積み重ねが社会課題の解決や地域の活性化に繋がっていくことを、強く期待させてくれます。



準大賞

大賞に次いで優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。活動奨励金 3 万円と表彰状が授与されます。

もりやま青年団（滋賀県）

概 要

活動名称	もりやま☆こんにちわーく13		
活動実施日	2025年11月15日	活動場所	守山市民ホール
関係者数	スタッフ約30人	参加者数	約500人（保護者含め）
活動概要	地元の小学生を対象とした職業体験・ものづくり体験ができる事業である。 今年で13回目を迎え、毎年団員の職業や得意分野を生かしブースを考案している。地元の企業や団体の方々のブースも展開し、より本格的な職業体験ができるよう協力していただいている。子どもたちが将来を考えるきっかけになり、未来に夢や希望を抱ける、成功体験を通し自分に自信がつくことを目標に事業を計画している。		

審査員講評

この度は準大賞受賞おめでとうございます。

地元の小学生を対象とした職業体験とものづくり体験の企画として、回を重ねるごとに充実していく様子が伺えました。青年団員の子どもたちへの想いを詰め込んだポスターやチラシなどが功を奏し、500 名もの参加者を動員できたということは本当に素晴らしいと思います。そしてまた、毎年地域の子どもたちが楽しみにしているイベントとなっていることの何よりの証でもあるのではないのでしょうか。職業体験とものづくり体験は、子どもたちの将来の夢を育む貴重な学びの場であり、多様な価値を生む社会教育活動であることは間違いありません。また多様なメンバーがいる青年団の強みを生かし、今回は地元企業・商店の方々など、地域との連携により人を巻き込んでいく工夫もされています。そのことによって、子どもたちとのふれ合いが団員だけでなく地域の皆さんも含めた達成感と連帯感を生んでいることが確認でき、高く評価しました。



奨励賞

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。
活動奨励金1万円と表彰状が授与されます。

高島市青年協議会（滋賀県）

概 要

活動名称	たかしま親子きもだめし in2025		
活動実施日	2025 年 8 月 13 日～2025 年 8 月 15 日		
活動場所	高島市安曇川町内 旧広瀬小学校（現 淡海湖西生涯学習支援センター）		
関係者数	協賛店を含めると50人は超える	参加者数	243 人
活動概要	廃校を利用した地域でのきもだめしイベント。 若者が主体でつくることと、「親子での」思い出づくりのためにやるという思いを大切に、実現に取り組んだ。絶対に昨年よりもパワーアップさせたいという思いから、会議や現地地下見から念入りに行った。		

審査員講評

このたびは奨励賞の受賞おめでとうございます！

かつて今津町青年団が開催していた「きもだめしイベント」を見事に復活させて、大きな反響を呼んだ 2024 年。続く 2 年目の 2025 年は前回の課題を踏まえつつ、イベントをさらに盛り上げようという熱い意気込みが、ひしひしと伝わってきました。

地域の人々と一緒になっての衣装や装飾の共作や地元の商店や企業から協賛を募るなど、街全体を巻きこんだ取り組みには若者らしいパワーがあふれています。課題だった飲食面もキッチンカーの導入やジュース販売所の配置でカバー。さらに自衛隊車両の展示コーナーを設けるなど、参加者を楽しませるための随所の創意工夫が見事でした。

廃校を舞台としたこの事業は親子に最高の夏の思い出を届けるとともに、高齢化がすすむ街に確かな活気もたらしたことでしょう。



奨励賞

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。
活動奨励金1万円と表彰状が授与されます。

石垣市青年団協議会、宮良青年会（沖縄県）

概 要

活動名称	石垣市青年団協議会 Presents 宮良青年会防災サバイバルキャンプ ・令和7年度石垣市スポーツ少年団キャンプ・スクール		
活動実施日	2025年11月2日～11月3日および22日～23日		
活動場所	石垣市内 伊野田オートキャンプ場		
関係者数	7人	参加者数	7人（防災サバイバルキャンプ）、20人（キャンプ・スクール）
活動概要	海外で学んだ「地域で子どもを育てる」という発想を活かし、地元でもできるアウトドアと組み合わせ子ども向け体験事業を開催。事前に自分達青年会で一度やってみて、事業の反省をスポーツ少年団向けサバイバルキャンプに活かした。石垣ならではの環境問題や危険生物への対処を取り入れながら、青年会の強みであるアウトドアと掛け合わせて、子どもたちに楽しみつつ学んでもらえる事業を開催した。楽しんだことも大事だけど、子どもに青年会を知ってもらう機会にできた。		

審査員講評

人口減少に伴う地域コミュニティの希薄化、ICT デバイスの普及、世界的な感染症の感染拡大の影響など、子どもを取り巻く環境は大きく変わりました。日常的な体験を通じて、身の回りに潜む危険やそれに対応するための知識を学んだり、自己肯定感や協調性などを身に着けたり、主観的な幸福感などを感じたりする機会は減っているのではないかと感じます。

このような中で、「地域で子どもを育てる」という視点をヨーロッパの視察から学び、石垣島でも地域で子どもを育てる環境をつくれないうという思いをもとに、石垣島ならではの資源や特性を生かした学びを取り込んだアウトドア活動を、実際に実現させた構想力と実行力が大変素晴らしいです。

特に、子どもを対象にする前に、まず青年会自身でキャンプを実施してみて課題を洗い出し、試行錯誤をして実際のプログラムの改善につなげたことは、とても重要な点だったのではないのでしょうか。そうした真摯な姿勢が、子どもたちや保護者、地域の方々の信頼を勝ち得ているのだと思います。

きっと、参加した子どもたちは、単にアウトドア活動が楽しかったという思い出だけでなく、真剣かつ楽しそうに取り組む皆さんの姿を見て何かを感じてくれたことでしょう。地域のつながりの中で体験的に学ぶことで、地域における様々な活動に積極的に関わる意識が高まっていき、それが世代を超えて地域のつながりを創っていく——この取組が、そんな循環のきっかけになることを期待しています。



奨励賞

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。
活動奨励金1万円と表彰状が授与されます。

CREW R.S.竜王町青年団（滋賀県）

概 要

活動名称	レクッサ(文化活動)	活動場所	竜王町公民館、竜王町総合運動公園
活動実施日	2025年5月26日～2025年10月5日		
関係者数	6人	参加者数	約80人
活動概要	2025年10月3日～5日に竜王町総合運動公園で開催された国民スポーツ大会のボルタリング競技に会場される選手や観客、関係者を歓迎する作品を製作する活動。		

審査員講評

CREW R.S. 竜王町青年団の皆様、「奨励賞」の受賞、誠にありがとうございます。44年ぶりの滋賀開催となった国民スポーツ大会に合わせ、折り紙を用いた「おもてなし」の作品制作に取り組まれた姿勢は実に見事です。多様な世代約80名を巻き込み、地域一丸となって歓迎の空気を作り上げた点は、青年団らしい温かみのある素晴らしい実践でした。審査会では、ぜひ実物の作品を拝見したかったという声がかかるほど、皆様の情熱が伝わる活動でした。



今後の期待として、今回の制作プロセスを通じて得られた「新しい仲間」や「ネットワーク」を、どのように次の活動へ繋げていくのかという広がりを感じてみてください。設置場所の調整などの苦労を糧に、関係各所との事前連携をさらに意識することで、皆様の自由な発想がより確実に、より大きな規模で形となるはずです。地域に新しい繋がりを生んだ皆様の次なる文化活動を、心より応援しております。





審査員賞 実践概要 ・ 審査員講評

2 県 2 実践が受賞

審査員賞とは

2023年度から導入された新たな賞です。応募いただいた実践のなかから、特定の観点において優れているものに授与されます。実践内容やその特色に合わせて、賞名や副賞の内容は審査会で決定しています。

※審査員の講評以外は、提出資料のアピールレポートや推薦書から抜粋しています。

アイデア賞

審査員賞は、応募いただいた実践のなかから、特定の観点において優れているものに授与されます。

表彰状が授与されます。

日野町連合青年会（滋賀県）

概 要

活動名称	「推し活」×「防災」～推しでつながる防災セミナー～		
活動実施日	2025年6月1日～10月13日		
活動場所	日野町連合青年会事務室、日野町林業センター		
関係者数	8人	参加者数	17人
活動概要	「推し活」と「防災」を兼ね合わせ、「楽しいこと」+「学び」のある事業を企画・実施した。これまで既存事業に精一杯取り組んでいたからこそ私たちにとって「楽しい」と思えることをメインにした新事業。「推し活」が「防災」にもつながる。そんな新たな発見を参加者にさせていただくとともに、今回「推し」を通じてつながった出会いが、災害時等もしものときに心の支えや助けになるかもしれない。そんな想いを込めて事業を行った。		

審 査 員 講 評

今回エントリーされた事業で最も評価したいことは、新たに事業をするために「みんなで」「じっくり」考えて企画し団員が自分事にして運営できた点です。自分たちが「楽しい」と思えることを事業にして「スポーツやゲームを知り合い向けに行う程度」になっていたところへ、参加者目線で考えた「推し活」、社会的な課題に目を向けた「防災」という2つの視点を加味したことはとても大きな成果だと思います。心から「楽しい」と思えることは、自分自身が楽しむことはもちろん、参加者やお客様から「ありがとう」と感謝されたり、誰かの役に立てたときの達成感、



それらに夢中になって取り組んでいる時の充実感のような気がします。我が事として必死に動いていた団員の姿や、振り返りの中で「楽しめたけど大変だった」「いっぱい考えた」という感想にも充実感が感じられます。

参加者集めが遅くなってしまったことやグループ運営に悩んだことなど改善点はあるものの、この事業を継続していくか否かにかかわらず、誰に参加してほしい事業か、何を持ち帰ってもらう企画なのかをみんなでじっくり考えて企画するのが大切だと思います。

地域 PR 賞

審査員賞は、応募いただいた実践のなかから、特定の観点において優れているものに授与されます。

活動奨励金1万円と表彰状が授与されます。

柴田町青年会「雀の一声」（宮城県）

概 要

活動名称	ゆずれない特産品 PR カフェ		
活動実施日	2025年10月26日～2025年11月30日		
活動場所	柴田町総合体育館		
関係者数	8人	参加者数	2000人
活動概要	イベントでの出店としてカフェを行いました。 今回は柴田町の名産であるゆずを PR するためにゆず湯の素を地元の農家さんに作り方を教わり、自分たちで作ったゆず湯の素をスペシャルメニューとして。		

審 査 員 講 評



柴田町青年会『雀の一声』の皆様、審査員賞「地域PR賞」の受賞、誠におめでとうございます。地元の名産である「ゆず」に着目し、農家の方々と協力して収穫や加工の工程を学び、カフェでのPRへと繋げた一連のプロセスは、地域への深い理解と愛着を感じさせる非常に素晴らしい取り組みです。運営面においても赤字を出さず、活動資金の一助として自立した継続性を確保されている点は、組織の安定性を高める工夫として非常に堅実で評価できます。

今回は活動写真が不足していたため、審査において現場の熱量や活動の細部を把握しきれなかったのが惜まれる点でした。写真などの視覚資料が充実していれば、さらに高い評価に繋がっていたはずですが。今後は製造工程やカフェの賑わいが伝わる写真を積極的に活用してみてください。また、協力農家の皆様の「生の声」を詳しく記載することで、地域連携の深まりがより読み手に伝わるようになります。

皆様の次なる展開を楽しみにしております。



日本青年団新聞 (Youth Post) 内「地域活動ラボ」でも取り上げています！







特別賞

実践概要 ・ 審査員講評

2 県 2 実践が受賞

※審査員の講評以外は、提出資料のアピールレポートや推薦書から抜粋しています。

田澤義鋪賞

一般財団法人日本青年館より、明正選挙運動、地方自治、地域振興などに取り組み優れた成果をおさめた団体に授与されます。活動奨励金5万円と表彰状が授与されます。

高知県青年団協議会（高知県）

概 要

活動名称	高知家モリモリプロジェクト～竹編～		
活動場所	高知県高知市・土佐市		
活動実施日	2025年11月1日～現在		
関係者数	200人	参加者数	50人
活動概要	森林率全国1位の高知県。中でも“放置竹林”は過疎・高齢化が進む高知県にとって大きな問題になっている。そこで高知県団では若者が森づくりや環境を学ぼうと数年前からプロジェクトを立ち上げ活動を行ってきたが、新しく放置竹林を整備する若者チーム「伐採チームヒガサス」を立ち上げた。活動を通して、地域のみなさんからの「ありがとう」はやりがい溢れ、地域との繋がりをダイレクトに感じられた。今後の高知県団の取組みの柱になる実践です。		

審査員講評

この度は田澤義鋪賞受賞おめでとうございます。

地元の課題となっている放置林に目を向け、伐採作業だけでは協力者が集まらないところ、竹ごはん作りという普段はなかなかできない楽しい体験を盛り込むという企画アイデアが光りました。日頃からなんとかしたいと地域で頭を悩ましている困りごとを、誰でもがやってみたいと思える魅力ある企画に変えていく取り組みは、優れたソーシャルデザインであると言えます。今回の取り組みは発想の転換が大変すばらしく、目の前にある課題がまちづくりの種に発展していく好事例とも言えます。人の想いを形にしていこうという構想力と、人を動員し実現していく実装力を高く評価しました。そして今回のように新たな体験価値を生む企画が人から人へと伝わり、また来年もと今後を楽しみにする機運につながっていくことも考えられます。どこにでも存在する放置林問題を解決するモデル事例として、全国に広がっていくことにも期待したいと思います。



全国青年団 OB 会奨励賞

全国青年団OB会（青年団OB・OGの連絡組織）より、全国の青年団にとって励みとなるような組織の強化及び拡大に顕著な実績をあげた団体に授与されます。活動奨励金5万円と表彰状が授与されます。

西米良村青年会（宮崎県）

概 要

活動名称	第29回新春やまびこロードレース大会		
活動実施日	2026年1月18日	活動場所	西米良村村所驛
関係者数	約30人	参加者数	約200人
活動概要	本大会は体力づくりと参加者同士の親睦が深まることを期待し、さらには村おこし運動の一環として、村内外の交流を図り活力ある村づくりに繋げることを目的とする。		

審査員講評

このたびの受賞おめでとうございます。「全国の青年団にとって励みとなるような組織の強化及び拡大に顕著な実績をあげた団体に授与される賞」にふさわしい取り組みです。

県内最少となる人口1,000人弱の村でありながら、その2割に相当する約200人もの参加者を集めた本大会の成功を高く評価します。「村民を笑顔にしたい」「この村に住んでよかった」と思えるようにという温かい願いのもと、村の子どもたちへ村外の多様な人々との良き出会いや交流の機会を実現されたことは、大変素晴らしい成果です。

また、前例踏襲を打ち破り、地元宮崎県出身者で世界選手権金メダリストの谷口浩美氏をゲストに招いたほか、白バイ先導の実現や出店依頼など、各方面との多岐にわたる調整に奔走された実行力には目を見張るものがあります。

これらの取り組みは村内外の交流を力強く促進し、関係人口の増加にも大きく貢献するものです。お仕事やご家庭もある中、手弁当で地域のためにここまで汗を流し、村を活気づけた西米良村青年会の皆様の熱い心意気に、心より敬意を表します。







その他の応募作品

実践概要 ・ 審査員講評

3 県 4 実践

※審査員の講評以外は、提出資料のアピールレポートや推薦書から抜粋しています。

岩手県青年団体協議会（岩手県）

概 要

活 動 名 称	活動家研修会		
活動実施日	2026年 1 月 25 日	活 動 場 所	岩手県青少年会館
関係者数	3人	参加者数	4人
活動概要	県内で活動している加盟団体を対象に、次世代リーダーの育成や役員のレベルアップを目指し、次年度の活動にいかせるような目的の研修会		

審 査 員 講 評

活動家研修会はかつて市町村や都道府県の青年団等が運動を進めるうえで必要な情報やスキルを学ぶ場として年度の早い時期に数多く開催されてきました。事業の名称は違っても今もいくつもの青年団で行われていると思います。時期としてはもう少し早く開催する予定だったと伺っていますが、冬季に行った場合も次年度の活動に活かす意味で効果はあったと思います。また、参加者が対面で交流する機会にもなり、効果的な組織運営をしていくためにも重要です。一方で、広報や情報発信については様々な若者団体でも共通した課題なので、組織内のリーダーに限定することなく広く若者対象にするのも一つの方向性です。



アピールレポートの書き方ですが、もう少し詳しく状況が記載されていると審査のしやすさにつながるので、できれば研修会のねらいや趣旨、スケジュール、各時間割りごとのテーマなど、必要最小限の内容は記載するようにしてください。

陸前高田市青年団体協議会（岩手県）

概 要

活動名称	気仙大工左官伝承館煤払い	活動実施日	2025年12月14日
活動場所	気仙大工左官伝承館		
関係者数	2人	参加者数	2人
活動概要	陸前高田市の小友町にある気仙大工左官伝承館。年に一度12月頃に1年分の煤を払い落とし綺麗にしています。		

審査員講評

釘を一切使わない気仙大工の技術を伝える「気仙大工左官伝承館」。会員減少という逆境の中でも「続けられるうちは続けたい」と毎年煤払いを請け負う青年団の皆様、心より敬意を表します。現役大工が在籍し高所の清掃を担えるのは、青年団ならではの強みです。

皆様の活動は単なる清掃にとどまりません。歴史ある施設を美しく保つことで、「地域の誇り」が形骸化・空洞化するのを防ぎ、その価値と魂を守り抜く極めて意義深い取り組みです。

今後は、この素晴らしい実践をまちの内外へ広く発信されることを期待します。さらに、煤払い体験や気仙大工技術のデモンストレーションや入門体験など、地元の子どもたちを巻き込む「次世代への継承」の視点を取り入れることで、活動のさらなる展開と、地域の誇りの確かな未来への繋がりが期待できる素晴らしい実践です。



豊川市青年団協議会（愛知県）

概 要

活動名称	研修旅行2025		
活動実施日	2025年10月11日～2025年10月12日		
活動場所	山中湖周辺（「山中湖旭日丘温泉 ホテル清溪」含む）		
関係者数	8人	参加者数	6人
活動概要	山中湖で1泊2日の研修旅行を実施し、集団行動・時間管理・対話的問題解決をテーマにした実践型プログラム、全国の青年団活動を学ぶ学習会、そして図画工作イベントへの応用を目的とした工作体験を行いました。少人数での車移動により交流が深まり、役割分担や挑戦を通じて団員それぞれが成長を実感できる研修となりました。		

審査員講評

豊川市青年団協議会の皆様、既存の研修事業を現状に合わせて再構築し、教育的価値の高い「学びの場」へと進化させた姿勢を高く評価します。当初の理論モデルに固執せず、団員一人ひとりの特性を丁寧に観察し、主体性を引き出すために柔軟にプログラムを設計し直したプロセスは、青年の成長を促す組織運営の模範と言えます。この研修を通じて双方向の対話が生まれたことは、今後の団体活動を支える大きな財産となるはずです。

せっかく実践大賞に応募いただいたのですから、研修の前後で「個人の意識」や「地域の活動」が具体的にどのように変化したのか、ビフォー・アフターの視点を加えてみてください。また、学習会の様子が伝わる写真があることで、当日の臨場感や真剣な眼差しがより審査員に伝わります。例えばこの研修を仲間員以外の地域の若者にも広げ、地域の担い手を増やす視点を強化してはいかがでしょうか。

次なるステップへの発展を期待しております。

滋賀県青年団体連合会（滋賀県）

概 要

活動名称	滋賀の音色のおもてなし		
活動実施日	2025年1月13日～2025年6月8日		
活動場所	主に近江八幡市 島コミュニティセンター		
関係者数	15人	参加者数	242人
活動概要	約30年ぶりに滋賀県で開催された全国青年団OB会のオープニングアトラクションとして、ヨシ笛演奏家の近藤ゆみ子先生と県内の青年団員11名によるヨシ笛演奏を行なった。誰ひとりヨシ笛をしたことがない人が集まる中で、11名の参加者全員が1カ所に集うことが難しかった。しかし、県内外から集まる多くの青年団の先輩方や関係者を“滋賀の音色”でおもてなしするため、それぞれが練習に励み、OB会当日の演奏後には多くの拍手とお褒めの言葉をいただくことができた。		

審査員講評

滋賀県で約30年ぶりの開催となった「全国青年団OB会」。県内外から200名以上のOBが集う大舞台で、滋賀県の現役世代がオープニングアトラクションの大役を任されることになりました。滋賀県らしさを存分に味わってほしいとの思いから、選んだのはよし笛の演奏によるお迎えです。



「琵琶湖よし笛」は琵琶湖や西の湖周辺に群生する葦（よし）で作られた、滋賀県発祥の縦笛です。しかし、声をかけたメンバーの中にはその存在すら知らない人もおり、まさに試練のスタートとなりました。

経験者が一人もいない中、全員が揃って集まる練習時間の確保や技術の個人差など、多くの壁にぶつかりました。それでも、日頃の活動で培った団員たちの高い意識と創意工夫で、それらの困難を乗り越えていきました。

練習を積み重ねて迎えた本番。オープニングアトラクションで奏でた滋賀の柔らかな音色は多くのOBたちの心に深く刻まれたはずです。今後の活動の広がりを予感させる素晴らしい取り組みです。





大賞

土佐市青年団（高知県）

アピールレポート

「世代交流食堂なぶらっこプロジェクト」

**2025（令和7）年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・自由記述）**

応募団体名	ふりがな とさしせいねんだん		
	土佐市青年団		
活動名称	ふりがな せだいこうりゅうしょくどうなぶらっこぶろじえくと		
	世代交流食堂なぶらっこプロジェクト		
活動実施日	2025年5月1日 ～ 現在		
活動場所	高知県土佐市		
関係者数	200人	参加者数	100人
活動概要	200文字程度		
	「土佐市青年団で地域食堂?!」…地元土佐市で地域食堂を運営していた有志のみなさんから食堂を辞めてしまうというお話を聞き、「地域の方々・こども達の居場所をなくしたくない!」という思いから一念発起し青年団が運営する“世代交流食堂なぶらっこ”をスタート。何もかもが初めて・手探りの中だったが、地域の多くの方々に支えられ、毎回大盛況の食堂に。青年団が“繋ぐ”地域の居場所・なぶらっこプロジェクトの歩みです。		

本申込の際に記入された個人情報は、日青協の諸事業等にのみ使用するものとします。

<アピールポイント>

※活動の詳細を以下に自由に記載してください。

文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動風景なども入れても問題ありません。

※文字の大きさやレイアウトに指定はありません。

※「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は?」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

————<次ページよりご記入ください>————

<ここから2枚以内でご記入ください>

●プロジェクトのきっかけ・動機

1. 土佐市青年団が「地域食堂」？！

昨年の春、土佐市内の中心部高岡で地域食堂を営んでいた有志の方から、毎月開催している食堂を辞めることになり「青年団でこの食堂を引き継いでもらえんろうか？」という話があった。この食堂には、青年団としても何度かお手伝いとして関わったことがあり、老若男女毎回大勢の方々が集っていることは知っていた。何とかしたい気持ちと、でも実際に自分たち青年団が食堂を運営するとなると大変そうなイメージがあり、最初はみんな二の足を踏んでいた。しかし、大変だとは思うが出来るかできないかと言うより、「地域の居場所が一つなくなってしまうこと」を想像した時に、やらないと言う選択肢はなかった。また、青年団で取り組んでいたこども達の居場所づくりの活動拠点にしつつあったのが「地域食堂とのコラボ」だった。何度か地域食堂と併催し、地元の社協さんからも「地域食堂（福祉）×こどもの居場所づくり（社会教育）の良いモデルや。今度福祉大会で発表してほしい！」と、活動や青年団活動の新たな展開への理解や活動の広がり・深まりに手ごたえを感じ始めていた中で、その土台となる地域食堂がなくなるのは、新年度の活動が暗礁に乗り上げる気がして、何とか開催したかった。「よし！何とかやってみよう！」団長のひと言でプロジェクトがスタート。新たに引き継いだ地域食堂の名前は「世代交流食堂なぶらっこ」。多世代が集い、交流できる、なぶれる（土佐弁で「群れ」を表す）食堂を目指して名付けた。

●「世代交流食堂なぶらっこ」プロジェクトスタート♪

1. まずは食材集めから！

やはり地域食堂の第1印象は「大変そう」。当日運営はもちろんだが、そもそも食材が集まるのか？誰が作るのか？地域の方からの「なんでも言うてや！」は大変心強いが、イメージできないことは、はっきり言って頼りようがないのが現実と言うものだった。しかし、みんなで意見を出し合い、イメージできる範囲でまずは動いてみた。青年団で繋がりのある農家の方々、企業さんに協力を依頼、廃棄予定の食材やご厚意で野菜や果物、ドーナツを譲ってもらうことが決まっていき、「次はこれはどうやるう？」「この人に聞いてみるのは？」等、団員間でも少しずつ手ごたえを感じ始めた。

2. 結成！チームクック

食堂の要となる料理。そこで料理が得意な青年団メンバーによる精鋭部隊「チームクック」を結成。みんなで集めた食材を基に、大人もこどもも来るのが楽しみになるようなメニューをみんなで考えた。また、それぞれが周りの友人にも声をかけたり、土佐市内でボランティアも募り、野菜を切る人・盛り付ける人等、料理が苦手でもそれぞれができる範囲で楽しく関われる場所づくりを意識した。

3. 多世代交流・居場所にするには？

元々活動で力を入れようとしていたこども達の居場所づくり。食堂と併せて居場所づくりだけでなく、縁日・クリスマスなど大規模なイベントを企画した。運営主体は、大規模イベントは県青協、こども達とのふれあいは大学生に協力してもらい実現した。また、こども達だけでなく、子育て支援をミッ

ションとする土佐市地域おこし協力隊員とコラボして、食後にゆっくりコーヒーを飲みながら子育ての話ができるパパママカフェも同時開催し、多世代が集い交流できる場所づくりにつとめた。

4. はじめての開催

どれくらいの人に来てくれるか不安が大きかった初日。しかしその不安は一気に吹き飛びました！子ども達からおじいさんおばあさんまで 120 人ほどの人が！同時開催した紙相撲企画や、パパママカフェも大盛況で、単にごはんを食べに来る場所だけでなく様々な世代が集い、交流する場所になっていた。また、地元高岡高校からも高校生にボランティアとして参加してもらい、食堂運営やこども達の遊び相手等、一緒にその空間をつくってくれた。

5. 地域や周りの方々の反応

青年団が主体となって若い世代が運営することに喜んでくれる人がたくさんいた。未熟なところも多いけれど「これも要るがやないが？」と手を貸してくれる方々「やりゆうかえ？」と毎回楽しみに来てくれる方々。親子・おじいちゃんおばあちゃんも一緒に遊びに行ける場所が少なかった土佐市。こどもの遊び相手をしてくれて、パパもママもゆっくりしたり、新しい出会いの場になっていると実感した。

●土佐市の多世代が“なぶれる”居場所に

1. 青年団だからできる場所

最初は初めてのことばかりで不安も大きかったけれど、子どもからお年寄りまでが集える居場所に来たのは、地域や世代を「つなぐ」ことを大事に、また失敗を恐れずチャレンジできる、また応援してくれる地域の方々がいる青年団だからだ。

「今日も美味しかった！」「おかわり！」「次はいつやるの？」「また一緒に遊ぼう！」の声や地域の方々の笑顔は、若者にとってやりがいもひとしおで、少しずつ関わってくれる仲間も増えてきた。地域のつながりの中で、色々な方々と連携する必要がある、青年団としても鍛えられる食堂運営。「やって良かった！」心からそう思える場所になった。

2. 土佐市の多世代が“なぶれる”居場所に

このプロジェクトがスタートし、ほぼ毎月 1 回開催をしてきた「世代交流食堂なぶらっこ」。老若男女多世代が集い、なぶれる居場所として少しずつ定着しつつあると感じる。食堂に来てくれる人の輪を広げることはもちろん、土佐市の若い世代が「やってみよう♪」を持ち寄り、色々な関わり方で盛り上げていける場所をこれからもつくっていききたい。



← 高知新聞にも取材いただきました。



準大賞

もりやま青年団（滋賀県）

アピールレポート

「もりやま☆こんにちワーク13」

No. _____

日青協使用欄

**2025（令和7）年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・自由記述）**

応募団体名	もりやませいねんだん		
	もりやま青年団		
活動名称	もりやま☆こんにちわーくじゅうさん		
	もりやま☆こんにちワーク13		
活動実施日	2025年11月15日（土）		
活動場所	会場：守山市民ホール		
関係者数	スタッフ約30名	参加者数	約500名（保護者含め）
活動概要	200文字程度		
	地元の小学生を対象とした職業体験・ものづくり体験ができる事業である。今年で13回目を迎え、毎年団員の職業や得意分野を生かしブースを考案している。地元の企業や団体の方々のブースも展開し、より本格的な職業体験ができるよう協力していただいている。子どもたちが将来を考えるきっかけになり、未来に夢や希望を抱ける、成功体験を通し自分に自信がつくことを目標に事業を計画している。		

本申込の際に記入された個人情報は、日青協の諸事業等にのみ使用するものとします。

<アピールポイント>

※活動の詳細を以下に自由に記載してください。

文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動風景なども入れても問題ありません。

※文字の大きさやレイアウトに指定はありません。

※「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

————<次ページよりご記入ください>————

<ここから2枚以内でご記入ください>

もりやま青年団は、『もりやま☆こんにちワーク13』をアピールします！

「もりやま☆こんにちワーク」とは？

- 地元の小学生を対象とした職業体験・ものづくり体験ができる事業である
- 団員だけでなく地元の企業・団体さまにも協力していただき、約10ブースを展開する



「もりやま☆こんにちワーク13」

○場所：守山市民ホール

○日時：2025年11月15日（土）

12：30 開場、整理券配布

13：00 体験はじまり

16：00 体験おわり

○主催：もりやま青年団

○共催：公益財団法人守山市文化体育振興事業団

○体験ブース：自動車整備士・照明、音響・ネイリスト・お花屋
大工・モデル・自衛隊・営業マン・勝部松明組・缶バッチ

○お楽しみブースとして、だがし屋・紙コップタワー・なぞとき・けん玉ブースを企画し、体験ブースの待ち時間や隙間時間を楽しく過ごせるように工夫しました



各ブースの様子



↑自動車整備士



↑缶バッチ



↑お花屋さん

☆今年の Special 企画「夢タワーを作ろう！」☆

1人ひとつの紙コップに自身の夢を描いてもらい、それを積み重ねて1つの大きなタワーを作ろうというものです。自身の夢を言葉や絵にすることで、改めて自分の夢を振り返るきっかけになればという、今年初めてこんにちワークの担当をしてくれた団員が考案した企画です。来場してくれた子どもや保護者の方々、当日参加したスタッフ全員で一緒に作り上げました。



◎この事業の押しポイント◎

① 普段の学校生活や遊び場ではできない体験ができる

→地域の大人や団員自らが考え提供するオリジナルな体験であり、子どもたちのやりたい気持ちたちが沸き上がるようなブースになるよう心がけています。

② 子どもたちに夢と希望を与えつつ、子どもたちの笑顔で私たちスタッフも幸せになれる

→体験してくれる子どもたちの表情がやりがいにつながります。今年帰り際に「楽しかった！絶対モデルになりたいと思った！」と言ってくれた子どもが忘れられません。

③ 団員自身のスキルアップや自信につながる

→初めてチラシを作ったり、参加者だけでなくスタッフも楽しめるような企画・雰囲気を考えたりします。自分の企画したブースが大盛況だったときは本当にやって良かったと思えるし、自分の得意なことを生かしたことで自信につなげることができました。

④ 新たな出会いやコミュニティが広がる

→こんなブースしてみたいけど自分たちの力だけでは…と悩むときに、地域の方に協力を依頼します。それ以降も関わるきっかけとなり、地域のために共に頑張る仲間として助け合い、普段の活動に生かすことができています。

⑤ 地域が、子どもが必要としていることは何かを考え、地元守山のことを考えるきっかけになる

→地域のために子どものためにもりやま青年団ができることを考え直すきっかけになっています。改めて地元の良さを感じたり、守山のために何か行動できていることの実感が湧いたりしてとても嬉しいです。

魅力たっぷりの「もりやま☆こんにちワーク」に、ぜひあなたも遊びにきてください！

田澤義鋪賞
高知県青年団協議会（高知県）
アピールレポート

「高知家モリモリプロジェクト～竹編～」

**2025（令和7）年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・自由記述）**

応募団体名	ふりがな こうちけんせいねんだんきょうぎかい		
	高知県青年団協議会		
活動名称	ふりがな こうちけもりもりぷろじえくと～たけへん～		
	高知家モリモリプロジェクト～竹編～		
活動実施日	2025年11月1日 ～ 現在		
活動場所	高知県高知市・土佐市		
関係者数	200人	参加者数	50人
活動概要	200文字程度		
	森林率全国1位の高知県。中でも“放置竹林”は過疎・高齢化が進む高知県にとって大きな問題になっている。そこで高知県団では若者が森づくりや環境を学ぼうと数年前からプロジェクトを立ち上げ活動を行ってきたが、新しく放置竹林を整備する若者チーム「伐採チームヒガサス」を立ち上げた。活動を通して、地域のみなさんからの「ありがとう」はやりがい溢れ、地域との繋がりをダイレクトに感じられた。今後の高知県団の取組みの柱になる実践です。		

本申込の際に記入された個人情報は、日青協の諸事業等にのみ使用するものとします。

<アピールポイント>

※活動の詳細を以下に自由に記載してください。

文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動風景なども入れても問題ありません。

※文字の大きさやレイアウトに指定はありません。

※「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

———<次ページよりご記入ください>———

<ここから2枚以内でご記入ください>

●プロジェクトのはじまり

1. 高知家と森林

高知県は森林率が83%あり、全国1位である。この豊かな自然を守ろうと、行政や森林組合からは助成金もあり、環境保全につとめようと、あちこちで啓発や実践の取り組みがなされている。中でも、採算性と環境保全を高い次元で両立する持続的な森林経営の「小規模自伐型林業」は、その考え方が青年団・社会教育と親和性が高いと感じ、高知県団してもふるさとの森づくり事業に取り組んできた。

事業内容としては、自伐林家にお世話になりながら杉・桧の伐採と、薪づくりを中心に行ってきたが、そもそも青年団メンバーは素人でチェーンソーやユンボは扱えず、森づくりを学ぶ講習会開いても、自分たちで体験や見学がメインで実践することは難しい現状があった。

【これまでの主な活動】

- ＊高校生自然体験元気モリモリキャンプ
- ＊薪割り・草刈り講習会
- ＊薪を使った河川敷軽トラサウナ

●「竹」とであう

1. 手軽な竹

きっかけはとある青年団メンバーの実家の土地に生えている「竹」を何とかしてくれないかという相談を受けたことだ。日頃高知県内で暮らす中で当たり前に見える竹林だが、後で振り返ると、そもそも何故気づかなかったのかと思う「竹」。竹はノコギリ1本でも十分伐採でき、大きな重機もいらず、男女関わらず手軽に伐採・活動できる。

高知県内では現在「放置竹林」が大変問題になっている。地域の高齢・過疎化や農業の担い手不足などが原因で、竹林を整備する人が減る一方、繁殖力旺盛な竹が次々と根を伸ばし、面積を拡大させていることで、生態系が破壊され土砂災害等の自然災害にもつながると言われている。

このような問題がありながらも、森林整備以上に放ったらかしにされている竹。なぜ誰も手をつけないのか？森林組合の団員に聞くと“お金にならない”からとのことだった。竹は“雑草”と同じカテゴリーであり、木と比べると手軽に整備できるが、草のカテゴリーだと草刈りの様な気軽さでは竹を伐採できず、整備する人が少ないのが現状である。

これなら自分たちでもできるし、誰もやっていないのであれば注目度も高いはず。これまで杉・桧を対象としていたプログラムを全て“竹”に置き換えてチャレンジしてみることにした。

●活動スタート

1. 結成！「伐採チームヒガサス！」

主な活動内容はチェーンソーが使える団員をリーダーに男女問わず5・6名がメンバーとなり、山に入る。リーダーが切った竹を出して来て、枝処理を行い、玉切りを行い、山の斜面に積み上げていく。

1時間ほど作業を行い、休憩を挟んでもう1時間。休憩入れて3時間弱のプログラムだ。これまで県内8カ所13回ほど活動した。

2. 活動を通して ～自然の中での体感と地域のみなさんからのお礼で益々増すやりがい～

団体名にもなっている「ヒガサス」は団員が「(伐採後)日が差すのが分かって気持ちがいですね」と喜ぶ様子からつけているのだが、明らかに竹林の雰囲気が変わったことを肌で体感でき、自然に後押しされる様な形でやりがいを感じている

また、明らかに雰囲気の変わる竹林の様子に地域の方も大喜び。“助かった！ありがとう！”は大変励みになるやりとりだ。また、作業現場はだいたい山奥ではなく家屋に迫る道路沿いの竹林であることが多く、噂を聞きつけた地域の方や通りすがりにみかけた方が「ウチもやってくれんろうか？」と問い合わせを頂き、現在も口コミで広がって行っている。

3. 親子で体験教室♪

竹の伐採とあわせて、竹でごはんを炊く講習を地域の方々から受け、親子で森づくりや環境問題について学び、竹でごはんをつくる体験教室を開催した。青年団メンバーが先生になり、来てくれた保護者の方々やこども達に竹を使ったごはんの炊き方をレクチャー。普段体験したことがなかったこと・自然に触れる機会をつくることで、「楽しかった！」「なかなか無い経験ができました！」と嬉しい感想もたくさんもらい、今後県内各地でさらに広げていこう！とメンバーも士気があがった。

●今後

1. PTA など他の社会教育関係団体との連携

今回親子体験教室を企画したことで、将来的には高知県内の小中学校の校庭で親子教室や防災学習の一貫で「竹ごはん」教室を開催したいと考えるようになった。青年団員以上に、高知市外の保護者の方の方が火起こしや竹伐採・竹ごはんのスキルは高いと思われ、自分たち青年団は最低限のノウハウ・スキルを身に着け、PTA や公民館に働きかけて「竹ごはんづくり教室」を開催している地域をイメージしながら竹にふれる青年団員を増やしていきたい。地域青年も竹伐採・竹ごはんづくりに長けているメンバーは多いと思われ、地域青年の自信につながる様、次年度以降コーディネートして行きたい。



全国青年団 OB 会奨励賞
西米良村青年会（宮崎県）
アピールレポート

「第 29 回新春やまびこロードレース大会」

No. _____

日青協使用欄

**2025（令和7）年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・設問有り）**

応募団体名	ふりがな にしめらそんせいねんかい 西米良村青年会		
活動名称	ふりがな だい29かいしんしゅんやまびころーどれーすたいかい 第29回新春やまびこロードレース大会		
活動実施日	2026年1月18日（日）		
活動場所	西米良村村所驛		
関係者数	約30名	参加者数	約200名
活動概要	200文字程度 本大会は体力づくりと参加者同士の親睦が深まることを期待し、さらには村おこし運動の一環として、村内外の交流を図り活力ある村づくりに繋げることを目的とする。		

<活動期間>

※準備から活動終了までの打ち合わせやリハーサルなど活動を行った年月を時系列で記入してください。

年	月	活動内容（各別にまとめて記入）
2025	11	役員会を行い、今後のスケジュールや実施要項の確認を行う。 道路使用許可申請書の提出や、案内文書の作成を行う。
	12	案内文書の送付、HPでの参加募集の掲載、1月に村民全世帯へ周知を行うための文書作成・印刷準備を行う。
2026	1	大会当日の準備仏の確認、スタッフへの説明会を行う。 17日前日準備、18日大会当日 終了後、来賓の方に御礼文書を送付する。

■活動のきっかけ、事業をつくるうえで参考にしたこと、準備期間に関すること等

・準備期間に関すること

当日の人員確保が課題となっております。今後さらに人員の確保が難しくなってくるため、持続可能な運営を行っていくためには、集めることよりも少ない人数で実施ができるように工夫を行う必要があります。

また、参加者が増えたことで今まで行っていたやり方だと運営がうまくいかない部分が浮き彫りになりました。次の大会では要項や運営の見直しを行っていく必要があると感じております。

■活動中の苦勞、印象深かったこと等

年々参加者が減少しており、昨年はラジオ等メディアを利用して参加者の拡大を図りました。今年はゲストとして谷口浩美さん（1991 年世界陸上競技選手権大会金メダリスト）をお招きし、大会を盛り上げていただきました。その結果、昨年の3倍参加者が増加し、大盛況に終了しました。

このロードレース大会は国道を全面通行止めにし、白バイに先導をしてもらいながら走るコースとなっております。参加者からは「白バイに先導をもらいながら走れるロードレース大会はなかなかなく、とても楽しかった。」「自然豊かな土地で村民の方から応援されながら走るのは気持ち良かった。」などとても喜ばれておりました。

また、今年は豚汁の振舞いや出店依頼も行いました。過去に振舞いをやっていたようですが、今の会員は誰も経験をしていないため、人数に対してどのくらい用意する必要があるのか、準備するものが分からなく、苦勞しております。

■活動の成果、今後の展望に関すること等

西米良村は人口 1000 人で、宮崎県内で最も人口の少ない村です。高校もなく、中学校を卒業したら親元を離れていかなければなりません。小中学校の児童生徒併せて 80 名に満たない人数です。そんな子どもたちが少しでも西米良に住んでよかったと思えるように、また帰ってきて今度は自分たちが地域を盛り上げるんだと思ってもらえるように活動を行っております。隣接する小中学校もないため、村外の児童生徒と交流をする機会もほとんど無い中、今回の大会では県内だけでなく、県を超えてたくさんの小中学生が参加をしてくれました。子どもたちが村外のたくさんの児童生徒と交流できたことが一番の成果だと感じております。そして高齢化が進む村内で、子どもや若者たちが元気に走っている姿を村民に見せることで、西米良村の活力も増していきます。子どもから高齢者まで、元気や笑顔を分けることができたことも一つの成果だと感じております。

来年は 30 回という節目の大会となります。これまで同様地域を盛り上げるためにロードレース大会は続けていきたいと考えております。

今後の展望としては、先の話にはなりますが、今参加してくれている子どもたちが将来西米良に帰ってきたときには、今度は参加者ではなく主催側として、盛り上げていってくれることを望んでおります。

No. _____

日青協使用欄

■地元の人たち（参加者）の反応

地元の方からは「村外からたくさんの方が来てくれて、とても賑やかで楽しかった。」とお声をいただきました。中には村外から応援に来られていた方と仲良くなり、今度西米良村へ招待をし、一緒にお食事をする約束をされた方もいたようです。選手だけに限らず、村民の方もいろいろな方と交流を深められ、西米良村が活気づいたと大変うれしく思っております。

■自由記述欄（各欄で記載できなかったこと等）

この新春やまびこロードレース大会は、先輩たちが引き継いでくれている大会です。人口減少等で開催を検討することも今後あるかもしれません。しかし今回の大会でたくさんの方が申し込みをしてくださいました。大会終了後には「とても楽しかったです！」「また来年も参加します！」と伝えてくださり、皆さん笑顔で帰っていかれました。準備はとても大変でしたが、その言葉でやってよかったなと感じることが出来ました。村外の方に「西米良村」という村があるんだと知ってもらいたい、子どもたち、村民の方を笑顔にしたい、この気持ちを大事に、これからもこの大会を後世に伝えていきたいなと思います。

以上

本申込の際に記入された個人情報は、日青協の諸事業等にのみ使用するものとします。

2025（令和7）年度全国地域青年実践大賞

表彰式・学習会概要

審査員講評

2025（令和7）年度全国地域青年「実践大賞」表彰式・学習会

3月に行われた日本青年団協議会第3回理事会の終了後、今年も全国地域青年「実践大賞」表彰式を開催しました。また、今年度は互いの実践に学び合い、地域での活動や青年たちの生活をより豊かにするという実践大賞の趣旨を実現するための新たな取り組みとして、学習会も同時に開催しました。大賞を受賞した土佐市青年団より、実践発表をいただきました。

当日は、実践大賞の審査員を務められた上原幸子先生、齋藤陽介先生、萩原建次郎先生にもご同席いただき、大賞および今年度の実践大賞全体に関して、講評をいただきました。

<開催概要>

日時：2026年3月21日（土）表彰式：18時15分～19時00分 学習会：19時00分～19時45分

会場：日本青年館8階 カンファレンスルームブルー・オンライン（Zoom）

出席団体：

No	賞名	氏名（団体名）		No	賞名	氏名（団体名）	
1	大賞	土佐市青年団	対	6	アイデア賞	日野町連合青年会	オ
2	準大賞	もりやま青年団	オ	7	地域PR賞	柴田町青年会『雀の一声』	対
3	奨励賞	高島市青年協議会	オ	8	田澤義鋪賞	高知県青年団協議会	対
4	奨励賞	石垣市青年団協議会、宮良青年会	オ	9	全国青年団OB会奨励賞	西米良村青年会	対
5	奨励賞	CREW R.S. 竜王町青年団	オ	—	—	—	—

※対＝対面参加、オ＝オンライン参加 いずれも代理出席含む

他、第3回理事会参加理事・執行部

<当日の様子>



会長が賞状を授与



オンラインでもご参加
いただきました



おめでとうございます！



受賞団体から一言



出品物も会場に展示



司会は佐藤常任



高知県の西村さん&
金澤さんから事例発表

学習会では、高知県・土佐市青年団より、「学びのココロプロジェクト」と「世代交流食堂なぶらっこ」について、事例発表をいただきました。発表いただいた際の資料も本報告書に掲載しています！

<先生方の講評>



齋藤陽介先生

(大賞への講評)

このたびは受賞おめでとうございます。

取り組みのきっかけは、地域食堂がなくなってしまうので青年団で運営を引き継がないかという相談があったとのことで、始まりはもしかしたらやむを得ないという事情があったのかもしれませんが、大変かもしれないけれどできるかできないかではなく、地域の居場所がなくなってしまうことを想像した時にやらないという選択肢はなかったという心意気と、一度引き受けたことに対して一途に向き合っている覚悟、試行錯誤しながらも誠実に取り組む責任感にとても

感動しました。特に評価したいのは、自分たちだけでどうにかしようとせず、地域のさまざまな人たちに相談して、できる範囲で楽しく関わってもらおうという姿勢で協力してもらい取り組みを実現していたことです。例えば、料理をする際にも、料理の苦手な人でもできる範囲で役割をもって関われるようにするというところがとても重要だと思いました。単にイベントに参加するということだけでなく、実際に手を動かして関わってもらい、イベントに参画してもらうということがポイントだったと思います。結果として、単に地域食堂を継続するだけではなく、子どもからお年寄りまでさまざまな人たちが集まって交流し、まさに名前の通り「なぶれる」(土佐弁で“群れる”を表す)場所をつくっていることが素晴らしいです。きっとそうした地域との関係が、更に地域食堂を活性化させるという好循環を生んでいるのではないかと思います。

今、多くの地域がさまざまな課題を抱えている中で、地域の困った声をキャッチして、その困り事に自分たちならどう向き合えるかということを考え、学びを通して取り組んでいこうとするという、まさに社会教育の本質を体現し、実践している取り組みだと思います。若いみなさんが地域のみなさんとともに色々な関わり方をすることが地域を盛り上げていくのだという考え方が更に広がっていき、その広がりが社会の課題の解決や地域の活性化につながっていく——そういうことを強く期待させてくれるような取り組みだったと思います。

地域食堂の取り組みを続けていくことは本当に大変なことだと思いますが、引き続き地域の方々を巻き込み、つながりあって、関わりを作り出し、取り組みを続けていただくことで、地域活性化につなげていただくことを強く期待しています。

(本年度の実践大賞全体にむけて)

みなさん、受賞おめでとうございます。今回、応募された団体が少し少なかったですが、レベルの高い実践の応募が多かったと強く感じています。特に今回発表してくださった土佐市青年団のみなさんが話してくれていたように、全員がいきいきと活動する姿には周りを巻き込んでいく力が感じられ、地域のさまざまな人が関われる工夫の大切さを実感しています。私自身も地域の子どもたちの居場所づくりをしています。居場所として一番大事なものは、子どもたちをはじめ多様な人の出番づくりだと常々思っています。ですから、今関わっているみなさんだけでなく周りの人たちが色々な形で関われる仕掛けが、活動を続けていくためにも必要だと思います。また子どもたちが成長し、いずれ世代交代をしていく上でも一番大事な工夫ではないかと感じています。今回みなさんのお話を伺って、私自身も「よし頑張ろう!」と元気をもらえた気持ちになりました。本当におめでとうございます。



上原幸子先生



萩原建次郎先生

みなさま、受賞おめでとうございます。実践大賞の審査員を引き受けてから15年ほどになりますが、今年は応募が例年より少なく13実践。事前に事務局から賞の希少性と権威性の懸念がある旨の文書があり、心を鬼にしながら厳正に審査をしました。蓋を開けたら、13実践中9実践の受賞。これはハードルを下げたわけではなく、大判振る舞いをしたわけでもなく、例年同様、厳しく審査した結果です。審査会では、単に点数だけではなく、審査員同士で点数以上にそこにどのような意味があるかを議論した上で受賞を決めています。悩んだのは、高知県。

昨年度も大賞、田澤賞。過去にも何度も受賞歴があります。高知県が他より頭一つ抜けているのが、先ほどの発表にもあったように、地域の課題をしっかりと捉えた上で、分析していること。「高知家モリモリプロジェクト〜竹編〜」も高知県は84%が山と森林に覆われ日本一緑が多く、放置竹林という問題があること、なぜ放置されてしまうのかの理由までしっかり調べて取り組まれています。去年も海外から来た技能実習生が地域で困っているという話を聞きつけてそこから多文化共生のプロジェクトを展開しています。そうした困りごと、まちのちょっとしたつぶやきのようなものをしっかりと捉え、捉えるだけではなく、しっかり調べて、見える化・言語化をしています。おそらく、地域の中でなんとなくキャッチしていて、やっていらっしゃるのだと思いますが、それを内外にどうやって伝えられるかというのが、高知県はほかと違います。

私は首都圏から出ることがほとんどありませんが、都会生活というのは「地域」がほぼありません。「地域の声」といってもどここの声なのかわからない、隣に住んでいる人もわからないという中で生きています。若い人達も困ってもどこに「困った」を伝えていいかわからない、誰を頼っていいのかもわからないという状況に置かれています。唯一のセーフティーネットである学校、大学や専門学校からはみ出しまったら、社会と繋がれる場がほぼないという状態にあります。ですが、便利が故に、SNSでつながってしまっているが故に寂しさは感じていないのです。しかし、もし天変地異が起ったら、その時は相当な孤立が浮上すると思います。そういう意味では、「地域」という実感をもって、活動をされているみなさんの現場があるということが、羨ましいと同時にすごいと思います。若者人口の半数以上が都市に集まってしまっている中で、地域と実体のある社会をつくっていらっしゃるみなさんの取り組みというのはとても貴重だと思います。いつもそういう思いで審査をしています。本当に敬意しかありません。みなさん、本当におめでとうございます。

大賞

土佐市青年団（高知県）

学習会資料

「世代交流食堂なぶらっこプロジェクト」

学びのココロプロジェクト 世代交流食堂なぶらっこ



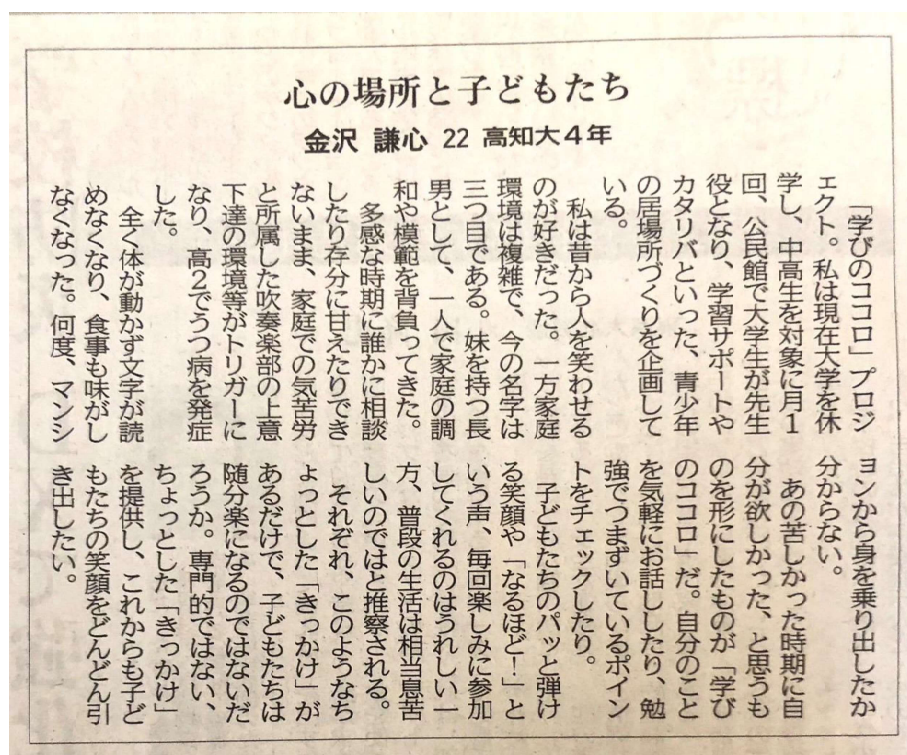
◆青年団×こども達の居場所づくり

★きっかけ①：キャンプ事業で高校生との語り合いでの気づき
→大人の想像以上に、色々なことを感じ・
考え・悩みながらもがいている子どもたち



◆青年団×こども達の居場所づくり

★きっかけ②：金澤くん（当時大学生）の経験・思い



◆青年団×こどもの居場所づくり

自分たちにできることは何だろう？



『学びのココロプロジェクト』

通称：まな・ココ

地域の青年団・若者・大学生と連携した
こども達の居場所づくり



◆ まな・ココ紹介

児童生徒が自分の存在意義を感じ、
「また来たい」と思えるような機会・場所を、
青年団・大学生とつくるプロジェクト。

- 勉強を「学ぶ」 : 学習支援
- 自分の心を「学ぶ」 : 児童生徒自身の学び
- こども・親と話すこと・
こども達に教えることを「学ぶ」 : 大学生自身の学び

◆ 実践を通して・若者にデキルコト

若者が地域の中で「動き」・「つなぎ役」となり、こどもたちが「地域」の中でイキイキできるような機会を作るという、社会教育的な取り組み。

- ・開催した事業全てに企画・運営に関わってもらった大学生
- ・開催にあたり地域との打合せや調整、大学生がイキイキ活動できるようにつなぎ役を担った地域団。

➡「関わって楽しい!」「やりがいを感じる!」の言葉の嬉しさは
もちろん、過疎衰退の進む高知県にとって、『こども達を中心に
地域で耀く若者が増えていくこと』は、これからの高知家の未来
にとって大変尊く大事にしていきたい。



世代交流食堂 なぶらっこ プロジェクト

◆プロジェクトのきっかけ・動機 「土佐市青年団が地域食堂?!」

土佐市社会福祉協議会の有志のみなさんが開催していた地域食堂運営ができなくなってしまう、青年団に引き継ぎの相談



- ・地域の居場所がひとつ無くなってしまう
- ・青年団として子ども達の居場所づくりの活動拠点として地域食堂とのコラボを大事に位置づけ



土佐市青年団で地域食堂を引き継ぎ、

世代交流食堂なぶらっこ

プロジェクトスタート 🍌

◆プロジェクトスタート！

課題はたくさん...！

食材は？

調理は
誰がするの...？



地域の方からの「なんでも言うてや！」は大変心強いけれど...

◆プロジェクトスタート！

→みんなで意見を出し合いイメージできる範囲でまずは動く！

食材集め

青年団で繋がりのある農家の方々、企業さんに協力を依頼、廃棄予定の食材やご厚意で野菜や果物、ドーナツを譲ってもらうことが決まっていき、「次はこれはどうやろう？」
「この人に聞いてみるのは？」等、団員間でも少しずつ手ごたえを感じ始めました🍌



◆プロジェクトスタート！

結成！チームクック

食堂の要となる調理

→料理が得意な青年団メンバーによる精鋭部隊
「チームクック」を結成！！

みんなで集めた食材を基に、大人もこどもも来るのが楽しみになるようなメニューをみんなで考えた。

また、それぞれが周りの友人にも声をかけたり、土佐市内でボランティアも募り、野菜を切る人・盛り付ける人等、料理が苦手でもそれぞれができる範囲で楽しく関われる場所づくりを。

◆プロジェクトスタート！

多世代が交流・居場所にするには？

青年団で元々力を入れていた「こども達の居場所づくり」
食堂と併せて居場所づくりだけでなく、縁日・クリスマスなど
大規模なイベントを企画♪

- ・こども達とのふれあい : 高知大学学生合同なぶら
- ・パパママカフェ : 土佐市地域おこし協力隊員
- ・イベントの運営サポート : 県青協

◆はじめての開催！



◆土佐市の多世代が“なぶれる”居場所に

●地域や周りの方々の反応

- ・ 青年団や地域の若者が主体となって若い世代が運営することに喜んでくれる人がたくさんで、「これも要るがやないが？」と手を貸してくれる方々・「やりゆうかえ？」と毎回楽しみに来てくれる方々も増えてきた。
- ・ 親子やおじいちゃんおばあちゃんも一緒に遊びに行ける場所が少なかった土佐市。こどもの遊び相手をしてくれて、パパもママもゆっくりしたり、新しい出会いの場になっていると実感。



◆土佐市の多世代が“なぶれる”居場所に

●青年団だからできる場所

- ・子どもからお年寄りまでが集える居場所に
→地域や世代を「つなぐ」ことを大事に、また失敗を恐れずチャレンジできる、また応援してくれる地域の方々がいる青年団だからだと実感
- ・「今日も美味しかった!」「おかわり!」「次はいつやるの?」「また一緒に遊ぼう!」の声や地域の方々の笑顔は、若者にとってやりがいもひとしおで、少しずつ関わってくれる仲間も増えてきた
- ・地域のつながりの中で、色々な方々と連携する必要があり、青年団としても大変鍛えられた



土佐市青年団が地域食堂

社協から継承し初開催



土佐市青年団員らが作ったカレーライスを喜んで食べる子どもら(土佐市のドラゴン広場)

【土佐】土佐市青年団が
賃の触れ合いを目的に企
画した「世代交流食堂なぶ
らうこ」が18日、同市高岡
町のドラゴン広場で初め
て開かれ、近隣に住む親子
連れやお年寄りらが食事や
じゃべりを楽しんだ。
同広場では昨年10月から

ほぼ毎月、土佐市社会福祉
協議会が地域食堂を開いて
きたが、今年3月に活動が
終了。それを知った同青年
団が「地域のつながりの場
を残したい」と引き継い
だ。
この日、同広場での縁日
イベントに合わせて開催。

団員や住民ボランティアら
がカレーライス約100人前や
コンソメスープ、からあげ
などを準備し、高知大学の
学生や高岡高校の生徒らも
手伝った。食材の多くは、
市内外の飲食店や農家など
が提供した。
午前11時のオープン直後
から住民らが続々と訪れ、
カレーライスを頬張りなが
らわいわい。蓮池小2年の
細木心春さん(7)は「カレ
ーは甘くて食べやすい。ド
ーナツもおいしい」と笑顔
で話し、母親の清香さん
(42)は「他の家族や子ども
たちと気軽に集える場所が
できるのは本当にありがた
い」と喜んでた。
今後も毎月開催する予定
で、食事は高校生以下無
料、大人500円。同青年団員
の森岡千晴さん(33)は「親
子連れはもちろん、移住者
と地元の人、若者とお年寄
りが交流できる居場所とし
て続けていきたい」と話し
ている。

(谷沢文流)

ご清聴ありがとうございました♪



心の場所と子どもたち

金沢 謙心 22 高知大4年

「学びのココロ」プロジェクト。私は現在大学を休学し、中高生を対象に月1回、公民館で大学生が先生役となり、学習サポートやカタリバといった、青少年の居場所づくりを企画している。

私は昔から人を笑わせるのが好きだった。一方家庭環境は複雑で、今の名字は三つ目である。妹を持つ長男として、一人で家庭の調和や模範を背負ってきた。

多感な時期に誰かに相談したり存分に甘えたりできないまま、家庭での気苦労と所属した吹奏楽部の上意下達の環境等がトリガーになり、高2でうつ病を発症した。

全く体が動かず文字が読めなくなり、食事の味がしなくなった。何度、マンシ

ヨンから身を乗り出したか分からない。

あの苦しかった時期に自分が欲しかった、と思うものを形にしたものが「学びのココロ」だ。自分のことを気軽に話したり、勉強でつまづいているポイントをチェックしたり。

子どもたちのパツと弾ける笑顔や「なるほど」という声、毎回楽しみに参加してくるのはうれしい一方、普段の生活は相当息苦しいのではと推察される。

それぞれ、このようなちよつとした「きつかけ」があるだけで、子どもたちは随分案になるのではないだろうか。専門的ではない、ちよつとした「きつかけ」を提供し、これからも子どもたちの笑顔をどんどん引き出したい。

土佐市青年団が地域食堂



土佐市青年団員らが作ったカレーライスを喜んで食べる子どもら(土佐市のドラゴン広場)

社協から継承し初開催

【土佐】土佐市青年団が賃の触れ合いを目的に企画した「世代交流食堂」が18日、同市高岡町のドラゴン広場で初めて開かれ、近隣に住む親子連れやお年寄りらが食事やじゃべりを楽しんだ。

同広場では昨年10月から

ほぼ毎月、土佐市社会福祉協議会が地域食堂を開いてきたが、今年3月に活動が終了。それを知った同青年団が「地域のつながりの場を残したい」と引き継いだ。

この日、同広場の縁日イベントに合わせて開催。

団員や住民ボランティアらがカレーライス約100人前やコンソメスープ、からあげなどを準備し、高知大学の学生や高岡高校の生徒らも手伝った。食材の多くは、市内外の飲食店や農家などが提供した。

午前11時のオープン直後から住民らが続々と訪れ、カレーライスを頬張りながらわいわい。蓮池小2年の細木心春さん(7)は「カレーは甘くて食べやすい。ドーナツもおいしい」と笑顔で話し、母親の清香さん(42)は「他の家族や子どもたちと気軽に集える場所ができるのは本当にありがたい」と喜んでた。

今後も毎月開催する予定で、食事は高校生以下無料、大人500円。同青年団員の森岡千晴さん(33)は「親子連れはもちろん、移住者と地元の人、若者とお年寄りが交流できる居場所として続けていきたい」と話している。

(谷沢文流)

雑誌社会教育・日本青年団新聞への掲載について

今回の応募実践や受賞実践については、以下の媒体等で、詳しくご紹介予定です。ぜひあわせてご覧ください！

雑誌社会教育

一般財団法人日本青年館発行の雑誌「社会教育」に、1号につき1件の受賞実践を掲載してご紹介いたします。今年度は、大賞・準大賞については前・後編での2号連続掲載を予定しています。

<雑誌「社会教育」について>

1946(昭和21)年7月、社会教育連合会(当時。のちに財団法人全日本社会教育連合会に改称後、2012(平成24)年に一般財団法人日本青年館と合併)から、月刊誌「教育と社会」として発刊。のち社会教育法の制定を期に、社会教育のいっそうの飛躍的展開を図るべく、1950(昭和25)年2月に「社会教育」誌へと改題。2021(令和3)年6月号で創刊900号を迎えた。社会教育に関する情報発信を行うとともに、不定期刊行物の編集発行や調査研究を行ってきた。各自治体教育委員会や社会教育関係者、その関係団体などを読者層の中心として、社会教育のハンドブックとして発行されている。

雑誌社会教育のホームページは、下記 URL または、右記2次元コードからご確認いただけます➡

URL: <https://www.socialedu.net/socialedu>

2次元コード: 右記のとおり



日本青年団新聞（ユースポスト）

青年や青年団が全国でいきいきと活躍する姿を伝える日本青年団協議会の機関紙・広報誌です。

4・5ページの企画「地域活動ラボ」では、実践大賞に応募された取り組みを審査に携わった審査員自ら分析し、活動の社会的な意義を明らかにしています。

日本青年団新聞(ユースポスト)のバックナンバーは、下記 URL または2次元コードよりご確認いただけます。

URL: <https://dan.or.jp/shinbun/>

2次元コード: 右記のとおり



↑ 2026年5月号 宮城県・柴田町青年会「雀の一声」ゆずれない特産品 PR カフェ掲載時

